

8 学校アクションプラン

重点項目	学習活動	
重点課題	生徒の家庭学習の充実と教師の授業力向上	
現 状	(1)本校では家庭学習時間を1日平均4時間以上(1週間で28時間以上)確保するよう指導している。学習の習慣化が定着している生徒が一定数いる一方、学習時間の確保に困難を感じる生徒や、時間の確保はできても学習効率に工夫が必要で、成績向上を実感できずにいる生徒もいる。(2)生徒の主体性を引き出すため、本校の教師は「学び合い」や「ICTの活用」などの工夫を継続的に行ってきた。昨年度からは「振り返り」の機会も意識されるようになり、講義形式のみの授業からは脱却しつつあるが、「思考・判断・表現」に関する目標を達成するためには、55分授業の活用方法を研究し、各自の取り組みを全体で共有することが望まれる。	
達成目標	<p>〔家庭学習の充実〕</p> <p>①1・2年生の学習時間について 「自ら計画した家庭学習時間が達成できた」生徒の割合が70%以上となること。</p> <p>②効率的な学習について 「計画的で効率的な学習」ができるようになり、「学習の総量が増えた」生徒の割合が80%以上となること。</p> <p>※①は1学期、2学期に、②は1月に実施する学習生活実態調査の結果から考察する。</p>	<p>〔授業力向上〕</p> <p>①生徒による授業評価について 「学び合い」や「振り返り」が行われ「主体的に参加した」と評価された授業の割合が、全体の80%以上となること。</p> <p>②教員間の互見授業と情報共有 互見授業の実施率が100%となること。確実な学力を身につけさせる方策や、55分授業の活用に関し情報共有できる機会を設定すること。</p> <p>※①は1学期末、2学期末に実施する「授業アンケート」から考察する。②は教員へのアンケートを実施し、全員にその結果と考察を配布する。</p>
方 策	<p>1. 面接指導の充実… 担任および教科担当者による面接等を通し、学習時間の確保に困難を感じている生徒や学習効率に工夫が必要な生徒に対し、丁寧で具体的な指導を行う。</p> <p>2. 「学び合い」「振り返り」「ICTの活用」の充実… 各教科・科目において、授業一つ一つの達成目標を計画的に設定する。また、ICT利用の長所・短所を把握し効果的な利用法について研究を進める。</p> <p>3. 進路指導部との連携… 学習係と担任・教科担当者との連携において、生徒が家庭学習に主体的に取り組める適正な課題の質および量を設定する。また、生徒個々の進路希望に対して、学習計画や学習方法が効率的かつ効果的であるかを判断し、適切に指導する。</p>	
達成度	<p>①自ら計画した家庭学習時間が達成できた生徒の割合</p> <p>[9月] 1年 53% 2年 38% ※今年度新規 (1学期は4月実施と早期だったため設定せず)</p> <p>②「1学期より計画的で効率的になった生徒」</p> <p>[1月] 1年 81%(75%) 2年 68%(74%)</p> <p>「1日あたりの学習総量が増えた生徒」</p> <p>[1月] 1年 74%(63%) 2年 53%(59%) ※( )内は昨年の数値</p>	<p>①「学び合い」や「振り返り」が行われた</p> <p>[7月] 1年 79%(84%) [12月] 1年 86%(90%) 2年 88%(76%) 2年 92%(81%) 3年 70%(60%) 3年 77%(68%)</p> <p>主体的に授業に参加</p> <p>[7月] 1年 89%(83%) [12月] 1年 89%(82%) 2年 88%(82%) 2年 95%(81%) 3年 73%(83%) 3年 78%(84%)</p> <p>※( )内は昨年の数値、全校生徒対象</p> <p>②教員間の互見授業と情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>互見授業実施率91.9%(実施記録者数57/62、延べ互見数115)</li> <li>実施したアンケートの「まとめ資料」を1月26日に配付共有した。</li> </ul>
具体的な取組状況	<p>「方策」に対応して</p> <p>1面接指導の充実…担任による面接を年間5回以上実施し、学習状況の把握、学習習慣や生活習慣の見直し・改善に向けたアドバイス等を行った。また、その内容は学年会などで必要に応じて共有が図られ、学年や教科の担当者全体での指導に活かされている。面接には担任以外の先生もあたっており、生徒にも好評であった。学年の縦のつながりや、教科間の情報交換も活性化することが望まれる。</p> <p>2「学び合い」「振り返り」「ICTの活用」の充実… 教員個人の、もしくは教科全体のツールとして、ICT機器を用いた授業が定着している。その効用として、グランドデザインが容易なことから授業進捗の確保ができること、時間を効率的に使えるので適時教材を提示することができる。結果、生徒の思考する時間の確保、集中を途切れさせることなく進行できることに繋がっている。一方、ICTの使用を絶対視しないという姿勢も大切であろう。教員は、授業の目標達成に資する最適法を、その都度選択することを心掛け、実践している。</p> <p>3.進路指導部との連携… 課題の適正化は、学習係が、担任・教科担当者との連携のもと責任をもって行っている。課題量が適正か否かは、生徒が得るべき実力の度合から判断している。一方、課題にしっかり取り組みたいという生徒の気持ちは強いが、完遂できないことで自己肯定感が低下している者もいる。課題の意義については生徒に丁寧に説明し、継続して課題に取り組めるような環境作りを心掛けている。</p>	
評 価	<p>①C ②B</p> <p>①「自ら計画した家庭学習時間が達成できた」生徒の割合 結果に関し、1月実施のアンケートでは、「70%以上という目標に、どんな意味を持たせているのか」、「現状改善ための指標となるのか」との指摘を受けた。さらに、「生徒が設定した学習計画が教員の期待に合致しているのか」との懐疑もあり、達成目標の設定に一考が必要である。</p> <p>②「計画的で効率的な～」「学習総量が増えた」生徒の割合 これは生徒の絶対評価であるが、昨年度との比較においても、自己を肯定的に評価する生徒の割合は増えた。ただし、「学習時間は達成するものではない」「(生徒の)学習のストーリーを(教員も)共有すべき」という提言もあり、単に数字を追うだけではなく、授業・面接等でのきめ細やかな指導の実践が不可欠である。</p>	<p>①A ②A</p> <p>①「学び合い」や「振り返り」が行われた・主体的に授業に参加 「学び合い」や「振り返り」が行われたと答えた生徒の割合が、(7月)79%、(12月)85%、「主体的に参加した」と評価された授業の割合が、(7月)83%、(12月)87%であった。目標を上回り、また、昨年度の評価よりも高かった。新課程の施行で主体的な活動を様々に取り入れていることが、評価につながっているのではないかと、良い傾向であり、活動内容を深化させていくべきであろう。</p> <p>②教員間の互見授業と情報共有 互見授業の実施率は91%だったが、今年度は学校訪問もあり、特に新課程における授業実践について、意見交換が活発になされた。55分授業の活用で確実な学力を身につけさせる方策に関し、「生徒とキャッチボールするように心がけている」「生徒に考えさせる準備に時間がかかる」など、実践例や苦勞が広く共有され、教員自身のブラッシュアップの契機となった。</p>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンラインではなく、対面授業の良さを活かしてもらいたい。</li> <li>学習総量という定義があいまいで、教員および生徒間でも受け取り方が違うと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学び合い」や「ICT機器の活用」の研究を通して、生徒の主体的学習態度を引き出し深い学びに繋がるような授業改善を行ってもらいたい。</li> <li>不登校傾向の生徒に対して、オンライン授業を配信して欲しい。(クラスの雰囲気や授業の進度を伝えるといった意味で十分とのこと)</li> </ul>
次年度へ向けての課題	<p>次年度は、時間の長さよりも、生徒が「できるようになる」実感を得られる学習計画の立案・実践について、新規に達成目標を設定し、評価したい。それらを通して、学習と自己との対話、教員と生徒との対話、授業の在り方・課題の在り方についての対話を増やす契機としたい。</p> <p>新課程・新評価法が2年生にまで拡大する。これまでも「学び合い」や「ICT機器の活用」の研究は撓まず行われているが、今後も生徒の主体的学習態度を引き出し、深い学びに繋がるような授業改善を教科間、学年内で共有できるように、機会を設定し、さらなる授業改善がなされるような環境を準備したい。</p>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和4年度 富山高等学校アクションプラン-2-

重点項目	学校生活	
重点課題	基本的な生活習慣の改善	健康的な環境づくりに努める知識や能力の向上
現 状	<p>本校では『生活あつての学習』を掲げ、規則正しい生活習慣の確立をめざしている。しかし、スマートフォン等を長時間使用し、学習に支障をきたす生徒も見受けられる。また、スマートフォンの利用時間は、最近数年は増加の傾向にある。</p> <p>また、4月から18才を成人年齢とする法律が施行され、法的には親の承諾なく売買等の契約や、婚姻等の届が出せるようになったが、そうした18才をターゲットにした犯罪の危険性もしてきされている。</p> <p>素直で真面目であるが、現実柔軟に対応できず悩みを抱え、高校生活に適応しづらくなっている生徒がいる。学習への精神的圧迫からか1年2学期から2年1学期にかけて不登校気味になる生徒も見受けられる。成人としての自覚や責任をまだ意識していない3年生が多い。</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止は、引き続きの課題である。感染拡大防止対策の一環として換気が推奨されており、日々実践しているところではあるが、換気の状態を正確にとらえることは難しく、室内の二酸化炭素濃度を測定し換気の状態を認識し、十分に換気をすることが出来るようになることが重要である。また、食事の時の感染拡大が知られており、黙食の徹底、すみやかにマスクを着用することが重要である。</p>
達成目標	<p>①スマートフォンの、学習活動・生徒間連絡利用以外の使用時間短縮。</p> <p>②個人情報のSNSへの安易な書き込みの防止。</p> <p>③主体的に18才を成人年齢とする法律の要点を理解する態度の涵養。</p> <p>①学習活動や生徒間の連絡以外の目的でスマートフォン使用している時間が1日2時間以内である生徒割合が70%以上。</p> <p>②ネットパトロール等外部から指摘を受けるような他人の個人情報掲載、著作権違反、他への中傷記載などなくす。</p> <p>③18才を成人年齢とする法律を学ぼう(理解しよう)とした3年生の割合が80%以上。</p>	<p>環境整備委員、保健委員が中心となり、室内の二酸化炭素濃度を測定し、出来れば1000ppm、多くても1500ppmの濃度を下回るように、換気を徹底させる。黙食の徹底、速やかにマスクを着用することが出来るようになる。</p>
方 策	<p>1. スマートフォンは学習活動・生徒間連絡に不可欠なものとなりつつあるが、生徒に対して講演会を実施するほか、教員・保護者が連携して生徒の現状把握に努め、使用時間を控えさせる。</p> <p>2. 個人情報の安易な開示・書き込みなどについての危険性について生徒の意識向上を図る。</p> <p>3. 法律によって改められる権利と義務を、さまざまな機会を通じて啓蒙する。</p>	<p>二酸化炭素濃度測定器を教室に配置し、環境整備委員、保健委員を中心に教室内の二酸化炭素濃度を記録する。換気することで教室内の二酸化炭素濃度が低下することを実感し、換気の習慣を確立する。</p> <p>二酸化炭素濃度と眠気の関係や作業効率への影響を知り、感染拡大防止とともに、より良い学習環境について学ぶ。黙食・速やかなマスク着用を心がけ感染拡大防止に努める。引き続き手指消毒・清掃時の消毒に努める。</p>
達成度	<p>①学習活動以外でのスマートフォン使用時間が1日2時間以内である生徒の割合 1年…83% 2年…85% 計…84%</p> <p>②ネットパトロール等外部機関からの指摘 0件 (SNS書き込みでの人間関係のトラブル 1件 校内把握)</p> <p>③18歳成人の法律を学ぼうとする3年生の割合 81%</p>	<p>二酸化炭素測定装置の故障等もあり全クラスでの測定記録が不可能となる。換気についての方針も変化があり、常時換気から休み時間の間に換気する方向性が示されたことから、その方向で換気を行う習慣の確立とした。コロナ感染者、濃厚接触者等で出席停止となる生徒もいたが、学校での感染が疑われる事例はほぼ無く、家庭内感染が主であった。詳細は学校保健委員会にて報告した。</p>
具体的な取組状況	<p>新入生保護者に対しては、入学式後の保護者説明会で注意を呼びかけた。新入生に対しては警察の方を講師に招き、SNS安全教室を開催した。</p> <p>また、全校集会や学年集会等で注意を呼びかけ、意識の高揚を促した。</p>	<p>学校保健委員会で、本校の感染者数の推移、マスク着用に関する意識調査とともに報告し、指導助言をうける。</p>
評 価	<p>① B ②B ③B</p> <p>①スマホの1日の使用時間は、2時間を超える生徒はかなりのいると思われるが、昨年の学校評議委員会の指摘を参考に、今回学習利用を省いたら目標値を達成できた。学習利用の中身については不明な点もある。</p> <p>②外部からの指摘はなかったが、ライングループ内の書き込みで友人関係に亀裂が入ったケースもあった。個人情報書き込みの危険性は生徒に浸透しつつあると思われる。</p> <p>③18歳で成人となり、自分がその立場に該当するので、3年生の生徒の関心は高い。特に「選挙権」「売買契約」への関心が高い。</p>	<p>C</p> <p>学校内でのクラスターは確認されていないが、感染者や濃厚接触者は、日常的に見られるようになっているので、達成度は現状維持とした。</p>
学校関係者の意見	<p>保護者より「スマホは学習に不要」と今まで考えてきたが、「学習にスマホは不可欠になっている」「オンライン授業等スマホの使用機会は増加している」「子供同士は考えながら使用している」等、スマホの利用について、理解していく必要があるのではといった意見があった。スマホの使い方もコロナ禍で変化し、どのような利用方法が良いのかを生徒同士で考える機会があればよい。</p>	
次年度へ向けての課題	<p>スマートフォンの使用頻度が年々増加している現状の中で、適切な使用方法を生徒一人一人に考えさせたい。</p> <p>道路交通法の改正によって、自転車乗車時のヘルメット着用が努力義務として求められている。自転車事故がなくなる現状を踏まえ、校内でのルール作りが必要なのか、検討したい。</p>	<p>コロナに関する感染法上の位置づけが見直されつつあり、新年度には新たな方針が示されることとなると思われるが、アフターコロナ後に発生するであろう問題点についても、予測し対応策の検討が必要であると思われる。</p>

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)